

エコアクション21環境活動レポート

(平成29年4月～平成30年3月活動実績書)



- 1 組織の概要
- 2 対象範囲、レポートの対象期間及び発行日
- 3 環境方針
- 4 環境目標
- 5 環境活動計画
- 6 環境目標の実績
- 7 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容
- 8 環境関連法規の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟の有無
- 9 代表者による全体評価と見直しの結果

作成:平成30年5月15日

トヨシマ電機株式会社

<1>組織の概要

(1) 名称及び代表者名

トヨシマ電機株式会社
代表取締役社長 坂本喜則

(2) 所在地

本社 愛知県小牧市若草町86番地
ホームページアドレス <http://www.toyoshimadenki.co.jp/>

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者取締役企画室室長 国定明彦 TEL:0568-75-2246
担当者取締役総務部部長 山田修一 TEL:0568-75-2165

(4) 事業内容

電子部品の実装設計
各種ガス発生装置の製造・販売
クリーンルーム・クリーンブースの設計・施工
建設業(建築、大工、電気工事、管工事、内装仕上)

(5) 事業の規模

製品出荷額 5.1億円

	正社員	臨時員	派遣社員	計
従業員	24名	1名	1名	26名

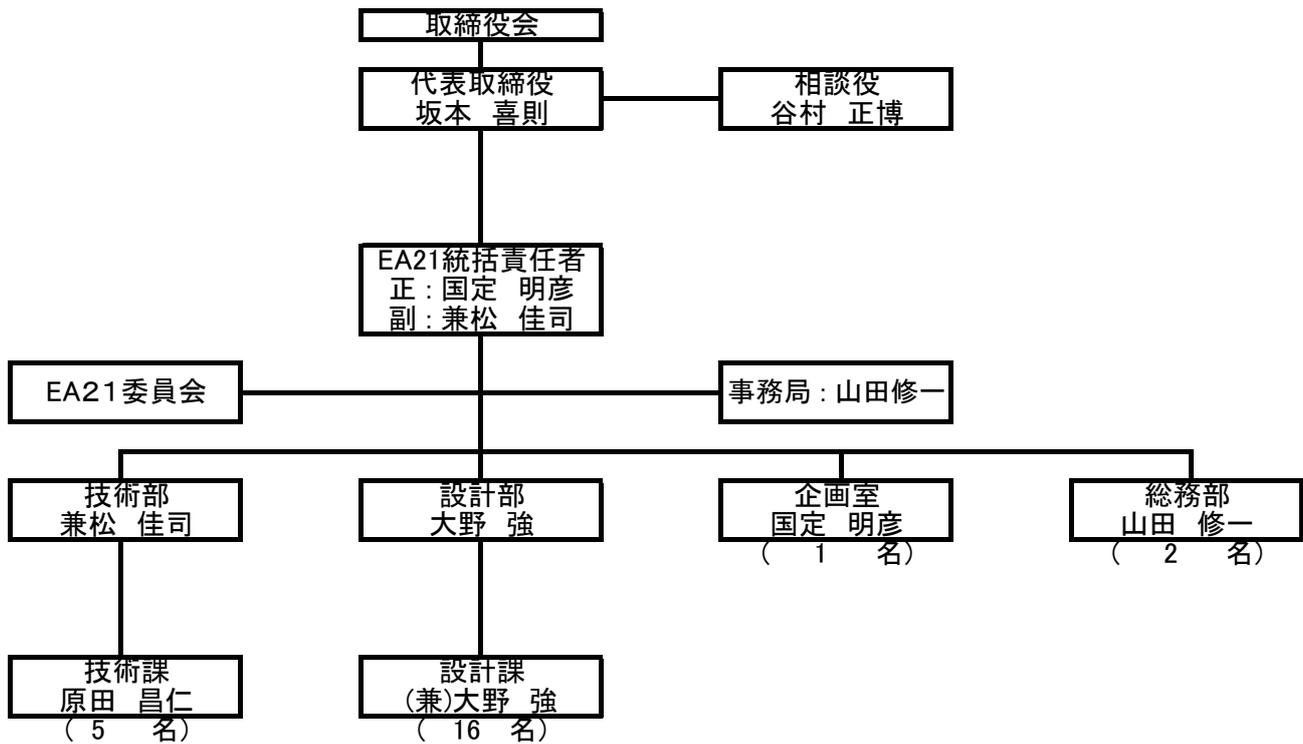
敷地面積 1,600.55㎡ 延床面積 475.64㎡

(6) 事業年度 6月～5月(活動年度は4月～3月)

(7) 会社沿革

昭和21年3月 愛知紡織(株)として創業
昭和36年9月 豊島グループに参入
昭和44年6月 トヨシマ電機(株)と社名変更
平成19年12月 豊島グループ内にて組織再編を実施
新設分割により、新規にトヨシマ電機(株)を設立
平成21年10月 新社屋完成
平成22年6月 エコアクション21認証・登録
平成29年2月 JISQ9100認証・登録

(8) 実施体制と役割



職名	氏名	役割
代表取締役	坂本 喜則	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針策定及び環境目標の決定及び見直しを行う。 環境経営システムの構築及び結果の評価を行う。 環境経営システムに有用な人材・設備・資金を確保し、効果的な運用と適切な維持管理を指示する。
相談役	谷村 正博	<ul style="list-style-type: none"> 相談役として、経営全般の助言を行う。 環境管理責任者への助言を行う。
環境管理責任者	国定 明彦	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの遂行をする。 環境関連のコンプライアンスの監視を行う。
技術部	兼松 佳司	<ul style="list-style-type: none"> 技術部の日常業務に於ける産業廃棄物の処理方法の検証及び、環境面での顧客への提案に関する活動を推進する。 建設業者向けガイドラインへの適用
設計部	大野 強	<ul style="list-style-type: none"> リサイクル品の積極的採用 省電力の推進
総務部	山田 修一	<ul style="list-style-type: none"> 部内の廃棄物の管理はもとより、社内全体の設備・システムを管理し、環境保全に関する活動を推進する。
EA21委員会		<ul style="list-style-type: none"> 社長、環境管理責任者(正・副)、事務局、各部課長以上で構成し、随時の会合、活動の進捗及び計画・結果の協議を行う。
事務局	山田 修一	<ul style="list-style-type: none"> 社長、環境管理責任者を補佐し、運用面全般の統括を行う。 活動における事務処理を担当する。

<2>対象範囲、レポートの対象期間及び発行日

(1)認証・登録範囲

登録組織名 トヨシマ電機株式会社
活動 電子部品の実装設計
クリーンルーム、クリーンブースの設計・施工
各種ガス発生装置の製造・販売

1. 技術部事業紹介

クリーンルーム



・ライン式クリーンルームの特長

- ①少ない換気回数で清浄度を達成出来る
- ②従来方式と較べて清浄度・温湿度のバラツキが少ない
- ③天井下にサプライダクトを設置する為、天井の低い建物にもクリーンルームが設置可能
- ④クリーンルーム設置後のグレードアップ及び移設も対応可能
- ⑤ユニット式の為、現地工事期間を大幅に短縮出来る
- ⑥室内ユニットのため、メンテナンスが容易
- ⑦空調機をインバータ仕様にする事により、省エネ運転も可能。照明はLED対応可能です。

クリーンブース



・アルミフレーム式クリーンブースの特長

- ①アルミフレームの結合は・Tロック・ボルト・エンドキャップを使ってフレーム内部で結合させるため、簡単かつ外観に優れています。
- ②さらにコーナー部にコーナーステー(2ピース)を使い、強固な組立剛性を確保しています。
- ③メーカー直送により、短納期(約2週間)の対応が可能です。
- ④FFUは強弱切替により、省エネ運転も可能です。照明はLED仕様もあります。

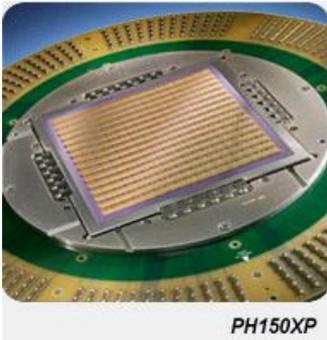
ロータリー式窒素発生装置



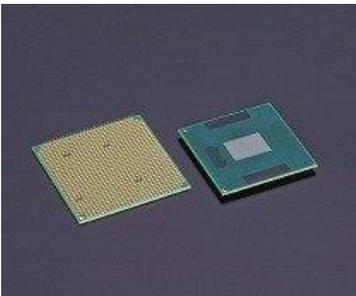
・ロータリー式窒素発生装置の特長

- ①ロータリーバルブ制御により大幅にコストダウン
- ②軽量&コンパクト、そして低騒音設計です。
- ③高圧ガス保安法、第二種圧力容器の適用範囲外ですので、設置が簡単です。
- ④オプションで酸素濃度計の取り付けが可能です。
- ⑤ローターバルブの採用により、制御回路なしでも運転可能となり、省エネ運転。

2. 設計部事業紹介



半導体シリコンウエハーの検査に使用される
アルミナセラミックの多層基板のCAD設計



MPUなどの高密度多ピン対応の
オーガニックビルドアップ基板のCAD設計

(2)レポートの対象期間及び発行日

対象期間 平成29年4月1日から30年3月31日まで
発行日 平成30年5月15日

基本理念

トヨシマ電機株式会社は、社会の一員として自然環境の大切さを認識し、此処に行動指針を策定し環境保全に全社で取り組みます。

環境行動指針

当社は電子部品設計及び空気(オゾン・窒素・クリーンルーム)関連機器の製造・販売の事業活動において、循環型社会を目指し自然環境に配慮し、その目標達成の為、全社一丸となって取り組みます。

- 1 事業活動において、CO2の排出削減(省エネルギー)に取り組みます。
- 2 資源を大切にして、リサイクルとゴミの削減及び水資源投入量の低減に努力します。
- 3 化学物質の使用量の削減・代替努め、環境汚染の防止に努力します。
- 4 環境関連法令を遵守します。
- 5 全社員に環境問題を啓蒙し、環境方針の実行に継続的に取り組みます。
- 6 クリーン設備や環境関連商材、サービスに関する環境配慮に注力し、当該商材の提供により、社外での環境貢献に努めます。
- 7 グリーン購入に関し、計画的且つ効果的な取組を行います。
- 8 上記1～7の項目に関し、「質の向上」に努めます。

平成29年4月1日

トヨシマ電機株式会社
代表取締役 坂本喜則

<4>環境目標と実績

(1) 環境負荷項目と削減目標

2010年度に、設備及び人員の大幅な削減を行った為、電力量、廃棄物、排水量の大幅な削減があり、事務所も移転となった。従って、2011年度からは環境が大きく変化している事から、2016年度までは基準値を「2011年度と2012年度」の平均値とし、目標値は「前年実績比-3%」としていた。
2017年度からは、目標値を「前年実績比-3%」から過去3年間の実績平均値に対し年率1%削減に変更した。
* 2018年以降の中期目標に関してもこの考え方を踏襲する(過去3年間の実績平均値に対し年率1%の削減)
⇒(3)項参照

環境方針 負荷項目	基準値 2011~12年平均	区分	前前期	前期	当期	来期
			2015年度 第9期	2016年度 第10期	2017年度 第11期	2018年度 第12期
CO2 排出量 〈電力使用量〉 Kg-CO2/年	28,106 (基準値)	目標	前年比 -3%	前年比 -3%	3年平均△1%	3年平均△1%
		実績	数値 24,798	数値 25,898	数値 25,638	数値 25,379
CO2 排出量 〈ガソリン使用量〉 Kg-CO2/年	11,110 (基準値)	目標	前年比 -3%	前年比 -3%	3年平均△1%	3年平均△1%
		実績	数値 10,110	数値 10,140	数値 10,614	数値 10,507
廃棄物 総排出量 m ³ /年	36 (基準値)	目標	前年比 -3%	前年比 -3%	3年平均△1%	3年平均△1%
		実績	数値 34.5	数値 34.3	数値 36.1	数値 35.8
総排水量 m ³ /年	151.4 (基準値)	目標	前年比 -3%	前年比 -3%	3年平均△1%	3年平均△1%
		実績	数値 150	数値 167	数値 160	数値 159
OA用紙 購入量 削減 Kg/年	758 (基準値)	目標	前年比 -3%	前年比 -3%	3年平均△1%	3年平均△1%
		実績	数値 730	数値 760	数値 762	数値 755
社会貢献 項目増加 件/年	新規 3.5	目標	前年比 -	前年比 -	前年比 -	前年比 -
		実績	数値 3案件	数値 3案件	数値 3案件	数値 1案件
グリーン 購入の 推進 件/年	新規 4.5	目標	前年比 -	前年比 -	前年比 -	前年比 -
		実績	数値 6品目	数値 6品目	数値 5品目	数値 2品目

目標値の前年比:前年実績に対する比率

※電気の排出係数は「0.482」(t-CO2/kWh)を使用しています。

(2) 2018年度の環境目標

「総量」での目標設定に加え、環境効率性指標として「売上高当たりの数値」にも言及する。
「売上高当たりの数値」の単位は、「ポイント」と表現する。
環境効率性指標の妥当性については、継続的に検討を行っている。受注件数や営業利益等といった見解もあるが、受注物件の大小や利益率に大きく左右される事から、現状「売上高」が最適という判断となった。

2018年4月設定

環境方針・負荷項目	区分	単位	目標
CO2排出量 〈電力使用量〉	総量	Kg-CO2/年	25,379
	売上高当たり	ポイント	(654)
CO2排出量 〈ガソリン使用量〉	総量	Kg-CO2/年	10,507
	売上高当たり	ポイント	(221)
廃棄物総排出量	総量	m ³ /年	37.5
	売上高当たり	ポイント	(922)
総排水量	総量	m ³ /年	159
	売上高当たり	ポイント	(4,303)
OA用紙購入量	総量	kg/年	755
	売上高当たり	ポイント	(19.95)
社会貢献項目の増加	総量	件/年	1
グリーン購入の推進	総量	件/年	2

「社会貢献項目」について

「社会貢献項目」とは、顧客への「省エネ・環境配慮型商材」の提供、環境関連新技術の検討、環境負荷低減を通じた地域社会への働きかけ等をいいます。

2018年度環境効率性指標の目標値(下段)は、売上予算が確定し次第、目標値を決定する。

()内の数値は仮として2017年の実績値を記載

(3) 中期目標の設定(総量分)

2010年度に、設備及び人員の大幅な削減を行った為、電力量、廃棄物、排水量の大幅な削減があり、事務所も移転となった。従って、2011年度からは環境が大きく変化している事から、2016年度までは基準値を「2011年度と2012年度」の平均値とし、目標値は従前通り、「前年実績比-3%」としていた。
2017年度からは、目標値を前年比マイナス3%から過去3年間の実績平均値に対し年率1%削減に変更した。
* 2018年以降の中期目標に関してもこの考え方を踏襲する(過去3年間の実績平均値に対し年率1%の削減)具体的な数値は以下に示す。

◆ 2017年以降の中期目標

環境方針 負荷項目	(新)基準値 2014~16年平均	区分		2017年度	2018年度	2019年度
				第11期	第12期	第13期
CO2排出量 〈電力使用量〉Kg-CO2/年	25,897	目 標	基準値比	-1%	-2%	-3%
			数値	25,638	25,379	25,120
CO2排出量 〈ガソリン使用量〉Kg-CO2/年	10,721	目 標	基準値比	-1%	-2%	-3%
			数値	10,614	10,507	10,399
廃棄物 総排出量m ³ /年	36.5	目 標	基準値比	-1%	-2%	-3%
			数値	36.1	35.8	35.4
総排水量 m ³ /年	162	目 標	基準値比	-1%	-2%	-3%
			数値	160	159	157
OA用紙購入量 削減Kg/年	770	目 標	基準値比	-1%	-2%	-3%
			数値	762	755	747
社会貢献 項目増加 件/年	1件以上/年	目 標		-	-	-
			数値	3案件	1案件	1案件
グリーン購入の推進 件/年	2品以上/年	目 標		-	-	-
			数値	5品目	2品目	2品目

※電気の排出係数は「0.482」(t-CO2/kWh)を使用しています。

<5>環境活動計画

主要な環境活動計画の内容及び取組状況

環境方針	2017年度取組手段
CO2排出量の削減 (電気使用量の削減)	1.昼休等、不要場所の消灯
	2.給茶機のエコ運転(勤務体系、季節等)
	3.器具の監視と定期交換・清掃
	4.網戸、サーキュレーター等の導入検討
	5.葦簣等の検討
	6.空調は必要な区域・時間限定
	7.空調機フィルターの定期清掃・交換
	8.太陽光発電の運用
CO2排出量の削減 (ガソリン使用量の削減)	1.急発進・急加速・急停止の禁止
	2.暖機運転・ストップ
	3「エコドライブにこころがけましょう」等車内でのPR
	4.取引先等他社での取組を参考にする
	5.エコカー等への切替検討
	6.公共交通機関の利用
	7.自転車通勤の奨励
廃棄物排出量の削減	1.顧客にて発生する産廃削減の検討
	2.納品時の梱包・包装の削減
	3.マイ箸、マイカップ、マイ水筒運動
	4.CO2削減値の把握と展開
	5.分別による削減方法の検討
	6.カタログ、パンフレット等の不用品の受取制限
	7.ゴミの圧縮・減量化
	8.RPF品再資源化でCO2削減
水使用量の削減	1.節水ツール等の検討
	2.節水の呼びかけ
	3.給茶機の使用に関し、節水方法を検討する
	4.清掃回数減少→汚さない工夫
OA紙購入量の削減	1.印刷物の必要最低限量の考慮
	2.社内配布・PDF&メールの増加
	3.ミスコピー防止の為に設定リセット
	4.両面・集約機能を利用したコピー、印刷
	5.裏紙コピー、使用済封筒等の利用
	6.郵送に替えて電子メールを活用
化学物質の監視	1.新規購買品にPRTR法該当の化学物質が含まれていない事の確認
社会貢献・対顧客活動	1.環境関連法令の改正、新規該当法令の確認
	2.環境配慮型商品の積極的PR
	3.HPの見直し、改定
	4.取引先での環境面取組方法の吸収
	5.環境関連新技術の検討
	6.特定フロン回収、適正処理(顧客対応)
	7.環境負荷低の為に情報提供
	8.構外の除草、清掃
グリーン購入の推進	1.グリーン購入の社内での啓蒙、勉強会
	2.エコマーク一覧の活用
	3.取扱商品への適用
	4.カーボン・オフセット商品の検索、検討
	5.既成製品も計画的に製品アセスメント等実施
	6.仕入先等に簡易包装の依頼
	7.輸送時のパレット・通い箱の利用

<6>環境目標の実績

(1) 2017年度の環境目標と実績

「総量」での目標設定に加え、環境効率性指標として「売上高当たりの数値」にも言及する。受注量の増加に伴う変動に柔軟に対応する事により、目標が現実的なものとなる。「売上高当たりの数値」の単位は、“ポイント”と表現する。

環境方針・負荷項目	区分	単位	目標	実績	差額	増減率	評価
CO2排出量 〈電力使用量〉	総量	Kg-CO2/年	25,638	26,453	815	3%	×
	売上高当たり	ポイント	652	654	2	0%	△
CO2排出量 〈ガソリン使用量〉	総量	Kg-CO2/年	10,614	9,141	-1,473	-14%	○
	売上高当たり	ポイント	249	221	-28	-11%	○
CO2排出量合計	総量	Kg-CO2/年		35,594			
廃棄物総排出量	総量	m ³ /年	36.1	37.8	2	5%	×
	売上高当たり	ポイント	920	922	2	0%	△
総排水量	総量	m ³ /年	160	174	14	9%	×
	売上高当たり	ポイント	4,095	4,303	208	5%	×
OA用紙購入量	総量	kg/年	762	816	54	7%	×
	売上高当たり	ポイント	19.59	19.95	0	2%	×
社会貢献項目の増加	総量	件/年	3	0	-3	0%	×
グリーン購入の推進	総量	件/年	5	1	-4	20%	×
太陽光発電量	総量	Kg-CO2/年		12,063			

△：やわずかに未達成

社会貢献項目の増加とグリーン購入の推進は、達成率で表示
CO2排出量の合計欄と、太陽光発電量(売電)欄を追加

<7>環境活動計画の取組結果と評価、次年度の取組内容

(1)環境活動計画の取組結果と評価

環境方針	第11期・2017年度取組手段	達成度 の評価				コメント	次年度の取組
		4～6月	7～9月	10～12月	1～3月		
CO2排出量の削減 (電気使用量の削減)	1.昼休等、不要場所の消灯	○	○	○	○	・総量目標「未達成」、環境効率性指標に基づく目標「△」わずかに未達 総量及目標は未達成だが、売り上げが上がった事により環境効率性指標はわずかに目標未達成というレベルであった。 葎質は外観を損なう為、設置を見送った。 今後の取組活動において他社の事例も参考に検討する	継続
	2.給茶機のエコ運転(勤務体系、季節等)	△	△	△	○		継続
	3.器具の監視と定期交換・清掃	△	△	△	△		継続
	4.網戸、サーキュレーター等の導入検討	△	○	△	△		変更
	5.葎質等の検討	×	×	×	×		廃止
	6.空調は必要な区域・時間限定	○	○	○	○		継続
	7.空調機フィルターの定期清掃・交換	○	○	○	○		継続
CO2排出量の削減 (ガソリン使用量の削減)	1.急発進・急加速・急停止の禁止	○	○	○	○	・総量目標「達成」、環境効率性指標に基づく目標「達成」 総量及び、環境効率性指標ともに削減目標達成となった。 2台の車両入替による燃費低減効果と、遠隔地での工事が少なくなった為。 今後の取組活動において他社の事例も参考に検討する	継続
	2.暖機運転・ストップ	○	○	○	○		継続
	3「エコドライブに心がけましょう」等車内でのPR	○	○	○	○		継続
	4.取引先等他社での取組を参考にする	△	△	△	△		継続
	5.エコカー等への切替検討	○	○	○	○		継続
	6.公共交通機関の利用	△	△	△	△		継続
	7.自転車通勤の奨励	○	○	△	△		継続
廃棄物排出量の削減	1.顧客にて発生する産廃削減の検討	△	△	△	△	・総量目標「未達成」、環境効率性指標に基づく目標「△」わずかに未達 総量では未達成、環境効率性指標はわずかに未達という結果になった。 総量では増加したが、売り上げも伸びたため。 産業廃棄物については、ゴミの圧縮・減量化にも取り組んでいきたい。 シュレッダーゴミの圧縮が課題。	継続
	2.納品時の梱包・包装の削減	△	△	△	△		継続
	3.マイ箸、マイカップ、マイ水筒運動	△	△	△	△		継続
	4.CO2削減値の把握と展開	△	△	△	△		継続
	5.分別による削減方法の検討	△	△	△	△		継続
	6.カタログ、パンフレット等の不用品の受取制限	△	△	△	△		廃止
	7.ゴミの圧縮・減量化	△	△	△	△		継続
水使用量の削減	1.節水ツール等の検討	×	×	×	×	・総量目標「未達成」、環境効率性指標に基づく目標「未達成」 総量及び、環境効率性指標ともに削減目標未達成となった。 工場での井水の使用を中止したが、構内での稼働時間が昨年より増加した事により使用頻度が増加し、目標未達成となった。	継続
	2.節水の呼びかけ	○	○	○	○		継続
	3.給茶機の使用に關し、節水方法を検討する	△	△	△	△		廃止
	4.清掃回数減少→汚さない工夫	△	△	△	△		継続
OA紙購入量の削減	1.印刷物の必要最低限量の考慮	△	△	△	△	・総量目標「未達成」、環境効率性指標に基づく目標「未達成」 総量、目標ともに「未達成」となった。 設計部において、印刷物での確認作業が一時的に発生したことが一要因。	継続
	2.社内配布・PDF&メールの増加	△	△	△	△		継続
	3.ミスコピー防止の為の設定リセット	○	○	○	○		継続
	4.両面・集約機能を利用したコピー、印刷	○	○	○	○		継続
	5.裏紙コピー、使用済封筒等の利用	○	○	○	○		継続
	6.郵送に替えて電子メールを活用	△	△	△	△		廃止
化学物質の監視	1.新規購買品にPRTR法該当の化学物質が含有されていない事の確認	○	○	○	○	購入実績なし	継続

環境方針	第11期・2017年度取組手段	達成度 の評価				コメント	次年度の取組
		4～6月	7～9月	10～12月	1～3月		
社会貢献・対顧客活動	1.環境関連法令の改正、新規該当法令の確認	○	○	○	○	・総量目標「未達成」 HPのリニューアルを行い、受注増に繋げた。 業務優先となり、新しい活動が出来なかった。 今後の取組については、打合せを繰り返していく。 構外の除草は定期的に実施出来た。	継続
	2.環境配慮型商品の積極的PR	△	△	△	△		継続
	3.HPの見直し、改定	○	○	○	○		継続
	4.取引先での環境面取組方法の吸収	△	△	△	△		継続
	5.環境関連新技術の検討	△	△	△	△		継続
	6.特定FONの回収、適正処理(顧客対応)	○	○	○	○		継続
	7.環境負荷低減の為の情報提供	○	○	○	○		継続
	8.構外の除草、清掃	○	○	○	○		継続
グリーン購入の推進	1.グリーン購入の社内での啓蒙、勉強会	×	△	×	△	・総量目標「未達成」 客先からのコストダウン要求が多く、要求に対応するために採用が限られているが、クリーンブースの照明をLEDを標準仕様としている。 来期も、顧客にグリーン購入の提案を行います。	継続
	2.エコマーカーの活用	△	△	△	△		継続
	3.取扱商品への適用	○	○	○	○		継続
	4.カーボン・オフセット商品の検索、検討	×	×	×	×		継続
	5.既成製品も計画的に製品アセスメント等実施	△	△	△	△		継続
	6.仕入先等に簡易包装の依頼	△	△	△	△		継続
	7.輸送時のパレット・通い箱の利用	△	△	△	△		継続

(2)次年度の環境活動計画・取組内容

環境方針	第12期・2018年度取組手段
CO2排出量の削減 (電気使用量の削減)	1.昼休等、不要場所の消灯 2.給茶機のエコ運転(勤務体系、季節等) 3.器具の監視と定期交換・清掃 4.ガラス面に断熱材(フィルム、塗料)施工の検討 5.空調は必要な区域・時間限定 6.空調機フィルターの定期清掃・交換
CO2排出量の削減 (ガソリン使用量の削減)	1.急発進・急加速・急停止の禁止 2.暖機運転・ストップ 3.「エコドライブにこころがけましょう」等車内でのPR 4.エコカー等への切替検討 5.公共交通機関の利用 6.自転車通勤の奨励
廃棄物排出量の削減	1.顧客にて発生する産廃削減の検討 2.納品時の梱包・包装の削減 3.マイ箸、マイカップ、マイ水筒運動 4.CO2削減値の把握と展開 5.分別による削減方法の検討 6.ゴミの圧縮・減量化
水使用量の削減	1.節水ツール等の検討 2.節水の呼びかけ 3.清掃回数減少→汚さない工夫
OA紙購入量の削減	1.印刷物の必要最低限量の考慮 2.社内配布・PDF&メールの増加 3.ミスコピー防止の為に設定リセット 4.両面・集約機能を利用したコピー、印刷 5.裏紙コピー、使用済封筒等の利用
化学物質の監視	1.新規購買品にPRTR法該当の化学物質が含有されていない事の確認
社会貢献・対顧客活動	1.環境関連法令の改正、新規該当法令の確認 2.環境配慮型商品の積極的PR 3.HPの見直し、改定 4.取引先での環境面取組方法の吸収 5.環境関連新技術の検討 6.特定フロン回収、適正処理(顧客対応) 7.環境負荷低減の為に情報提供 8.構外除草、清掃
グリーン購入の推進	1.グリーン購入の社内での啓蒙、勉強会 2.エコマーカーの活用 3.取扱商品への適用 4.カーボン・オフセット商品の検索、検討 5.既成製品も計画的に製品アセスメント等実施 6.仕入先等に簡易包装の依頼 7.輸送時のパレット・通い箱の利用
総合	1.取組活動において他社の事例を参考にする

様式:4-01 (4. 環境関連法規等のとりまとめ) 様式:12-02 (12. 取組状況の確認並びに問題の是正及び予防)

環境関連法規等取りまとめ表 (遵守評価記録)

毎年定期的な遵守評価の前に制定、改正の確認を行う。普段から規制の動きには注意を払う。

登録簿更新日: 2017年4月3日

保管: 事務局

遵守の評価日: 2018年5月11日

伝達: 関連部署

遵守評価の時期: 代表者による見直しの前

遵守評価の欄: 確認した記録など記入 判定欄: ○×(×の場合は問題点正票により解決を図る)

法規制等の名称	該当する要求事項 (対応すべき事項)	関連条例等による規制	該当する設備・項目	点検・測定頻度、実施時期	届出・報告・資格				担当部署	遵守評価		判定者
					許可	届出報告	資格	届出先		証拠	判定	
廃棄物処理法	・委託基準: 一廃収集業者の許可の確認	廃棄物処理法第6条	一般廃棄物(紙くず、繊維くず、木くず、生ごみなど)	・1回/年					総務	契約書・許可証	○	山田
	・委託基準: 産廃収集運搬・処理業者の許可の確認、契約		産業廃棄物(金属類・廃プラ類・廃ガラス・廃油・木製パレット)	・契約書/許可証につき1回/年					総務	契約書・許可証	○	山田
	・保管、収集・運搬の基準 部署毎に保管する 収集・運搬: 月2回 15日頃、月末 技術部等臨時の場合別途	2011年10月より・月2回									○	山田
	・マニフェスト交付 B2、D、E票の保管(5年間)、B2・D票90日、 E票180日以内に送付されない場合は 30日以内の知事への報告 2017/7より電子マニフェスト化	廃棄物処理法第11~13条			・マニフェスト 新規交付時 又は月末		○	知事	総務	マニフェスト	○	山田
	・産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出	毎年6月末迄に提出			6月初旬提出予定		○	知事		報告書	○	山田
消防法	・受注工事に消防設備がある場合	消防用設備(第31条の3関係)	顧客	新設・変更時(事前・事後)		○	○	該当市町村の消防本部	技術	新設(有 無)	○	山田
	・当社内消防設備(消火器具、非常警報器具及び配線)	消防用設備(第31条の3関係) / 年1回点検・3年に1回届出	社内	2018年3月9日実施	業者委託	○	○	小牧市消防本部	総務	点検報告書	○	山田
高圧ガス保管法	高圧ガスの取扱、事前届出、管理	高圧ガス保管法第四章	施工時に高圧ガスを使用する場合						技術	工事届	○	山田
フロン排出抑制法	・フロン類の適切な処理 ・回収・破壊の工程の確認 ・簡易点検、定期点検の実施(含記録)	フロン排出抑制法	空調機設置・修理時	廃棄時/修理時 簡易点検					技術	引取証明書 記録	○	山田
下水道法	排水の管理(生活排水のみ)	下水道法第12条	下水道	化学物質を使用の場合事前検討					総務 技術	生活排水のみ	○	山田
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)	・性状及び取扱いに関する情報(SDS)の提供 ・指定化学物質の管理(非使用、基準遵守等)	化管法第14条/施行令	現状無し<新規物質の出現を常にチェック>						技術	SDS提供状況	○	山田
グリーン購入法	・環境物品等の調達に関する基本方針の変更 ・環境マネジメントシステムの運用	グリーン購入法第5条							技術 設計	カタログ等	○	山田

・環境関連法規への違反はありません。尚、関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありません。

	承認	作成
登録		山田
	環境管理責任者	事務局
遵守評価		山田
	環境管理責任者	事務局

<9> 代表者による全体評価と見直し

平成29年4月～平成30年3月については、太陽光発電の4月～3月の合計で

25,026kW。月平均で2,086kWの発電がありました。

年間で、12,063kgのCO₂の排出を低減できました。(売電)

平成29年より、目標値を前年比マイナス3%から過去3年間の実績平均値に対し年率マイナス1%へ変更しました。

(審査員よりアドバイス)

CO₂排出量は、電気使用量が総量では未達成でしたが、売上当たりのポイントでは達成しました。

昨年度より、売り上げが伸びて稼働時間が増えたが、必要に応じた消費を心掛けた為。

ガソリンは、一昨年に2台の車両入替が寄与し、総量、ポイント共達成致しました。

総排水量に於いては、井水配管の漏れがあり、目標、ポイント共に未達成でした。

配管漏れを機会に井水の使用を中止しました。

廃棄物に関しては、工事が増えた等により、廃棄物が増加し廃棄物排出量は未達成となりましたが

売り上げが増加した為、ポイントでは達成しました。

OA用紙の購入は、一時的に印刷物による人手のチェックが多く未達成となりました。

来期もこの傾向を注視しつつ、今後の目標設定方法等を検討してしていくつもりです。

社会貢献及びグリーン購入については、お客様の要望事項に、コストダウン要求が多かったが

クリーンブースでの照明にLED照明を積極的に提案、採用し納品しました。

その他の活動として、照明SWIに「節電」シール貼付け、環境負荷の実績表(電気、ガソリン)の掲示をしました。

今後も社内でのコミュニケーション、検討会を適増させ、業績の向上と環境活動の

活性化の両立を目指し、全社一丸となって推進して参ります。

平成30年5月15日

トヨシマ電機株式会社
代表取締役 坂本喜則